



党創立95周年 共産党演説会開催

市民と野党の共闘で 総選挙の勝利を！

日本共産党演説会



加計学園問題では、「きちんとした証人喚問をしなれば、民主党からアベノ家になってしまおう」と異常な国会情勢を報告しました。さらに、地域を元気にする3項目をあげました。

7月22日、共産党創立95周年・演説会が、岩見沢平安閣で開催され、夕張後援会から、20名が、全体で200名を超える参加がありました。上田久司地区委員長の挨拶のあと、10区国政対策委員長のめが武さんが、新しいポスターと新しいパンフレットを紹介し、「安倍内閣に退陣していただくために、来



つづいて、畠山和也衆議院議員が国会報告をしまし

どのまちでも、安心して暮らせる社会を！

る総選挙で野党統一候補が勝利し、政治の流れを大きく変えましょう」と参加者に呼びかけました。

1、医療・介護・福祉を充実させる。富裕税や株投機者への課税で、財源をねん出できる。



2、一次産業（農林・水産業）を元気にさせる。農業支援を充実させ、食料主権（自国の食糧は自国でま

かなう）を確立するため、『食と農を守れ！』の声を空知からあげる。

3、JRの存続。他国は赤字を前提に、国が公共交通を支援している。鉄道関連税の創設など、政府の姿勢で、鉄路を守ることはできる。今こそ、地方切り捨て政策から脱却するチャンス。最後に、稲田問題をあげ、「安倍・稲田二人そろってやめさせよう。7月国連で、『核廃絶条約』が成立

し、出席しなかった日本政府に、世界各国が失望した。さらに、『憲法壊すな！』の声をもつと広げよう」と呼びかけました。参加者からは「国会の様子や財源の問題の核兵器禁止条約のことなどがよくわかり、未来に希望がもてた」等の感想が寄せられていました。

=女性キャラバン南空知をかける=



7月18日から21日、日本共産党南空知女性後援会では宣伝キャラバンを実施しました。

18日には美唄・三笠・月形、20日は岩見沢市内、21日は夕張・栗山・長沼・由仁・南幌を回り、街頭からの訴えと、走る車からも声で政策を訴え、22日の岩見沢での日本共産党演説会の案内も行いました。

夕張市内では、恵団地、歩団地、紅葉山メロート横で街頭から訴えました。

マイクを握ったくまがい桂子夕張市議は、森友疑惑・加計疑惑、防衛大臣の偽証の問題、東京都議選の結果報告、仙台市長選挙での野党共闘候補の勝利について語りました。

さらに、「安倍内閣が今後予定している、内閣改造ではなく、衆議院を解散して国民の信を問うべきです。今こそ、市民と野党が共同して安倍政権を倒し、平和憲法をしっかりと守りぬき、国民が安心して生活できる、新しい政治をつくっていきましょう。」と訴えました。

共謀罪法廃止を求める署名行動

日本共産党夕張後援会は、7月26日日本町の栄アパートで、「共謀罪法の廃止」をもとめる署名行動を取り組みました。「勝手にきめるな！」「まともに答えるろ！」「自由に話せる社会を守れ！」「野党は頑張れ！」等の多くの国民の声を無視し、この「共謀罪法」は6月15日に参院本会議で自民党、公明党、日本維新の会などの賛成多数で可決されました。



その後も全国各地で、「共謀罪法の廃止」をもとめる集会・署名活動が繰り返されています。くまがい桂子市議は、街頭からこの間の東京都議会選挙・仙台市長選の結果や、安倍内閣の支持率が連続して下落等の情勢

共謀罪
広い市民が
監視の
対象に

「テロ対策」では
ありません

党にお力を寄せ、くまがい桂子市議は、街頭からこの間の東京都議会選挙・仙台市長選の結果や、安倍内閣の支持率が連続して下落等の情勢

くずさんの夕張歴史散歩 (76)

大正10年のたたかい ⑩

夕張連合会、幹部つぎつぎとヤマを追われる

首切りはまず、安田為太郎、渋谷本次郎ら夕張連合会の幹部からはじまり、坂口親子もまた炭鉱地区から追い出されました。

次いで、田中芳雄、鈴木源重ら、そして渋谷久三郎とつぎつぎとヤマを追われます。唯一残った眞谷地支部も、果敢に賃上げを求めますが不発に終わり、遂に夕張連合会は壊滅してしまいました。

労働者のたたかいは終わらなかった

ヤマを追われた碓夫たちは転々と散らばり、札幌をはじめ各地にそれぞれのたたかう場をつくり出します。特に札幌に集まった人たちは、碓夫連合会—札幌自由団を組織し、麻生、坂口の裁判傍聴や支援に奔走します。また折から起きていた工場労働者の組織に乗り出しています。

炭鉱労働者のたたかいの変化

当初の頃は、時として暴動化していたたたかいかも、労働至誠会や片山潜、南助松、永岡鶴蔵などの指導のもとに組織の大切さを学びます。

それまで坑口ごとの枠から抜けきれなかった碓夫たちが、広く夕張の各ヤマを結び組織と共通要求をつくり、やがては夕張全体の組織から全国的な組織的たたかいに発展してきました。

日本共産党の誕生

しかし、会社資本の本性や警察などの権力の本質を見抜くことには未熟でした。結局は警察権力の国家暴力によって潰されてしまいました。

いよいよ国家権力と真に対決する、階級的組織の出現が待たれます。

こうして一九二二年（大正11年）、真の権力と対決する日本共産党の結成を迎えるのです。



紙智子「国会かけある記」
参議院議員

紙智子

シンプルでわかりやすいスローガン

第六〇回北海道母親大会に参加しました。一九五四年にアメリカがビキニ環礁でおこなった水爆実験による被害に抗議し、「核戦争の危険から子どもを守る」を合い言葉に、一九五五年に第一回全国母親大会が、核兵器廃絶、被爆者援護等をスローガンに、第一回原水爆禁止世界大会が開催されました。

平塚らいてうらは共同行動を世界にも呼びかけ、国際民主婦人連盟は世界母親大会をスイスで開く広がりを見せました。六〇年の歩みをスケッチした映像を見ながら、小笠原貞子さんや、多嶋光子さんなど、戦後の母親運動を引っ張ってきた先輩たち、その志を受け継いできた母親たちの願いと運動を深く感じることができました。

「命を生み出す母親は、命を育て、命を守ることを望みます」このスローガンのもと、どれだけ多くの母親、女性が参加し励まされてきただろう、命を軽んずる政治が横行する中で、このスローガンは、シンプルだけど、とてもわかりやすく、共感できるものだと思えました。

七月二十七日、二十八日には、日本共産党の北海道委員会、道議団、札幌・旭川市議団、総選挙をたたかう比例候補者、小選挙区の候補者が勢揃いして、十一省庁を相手に政府交渉を行いました。JR北海道の廃止問題をはじめとして、各分野の切実な要求をかかげ、全員が現場の声をぶつけて発言、政府に迫りました。「政権末期」と言われる安倍政権に対し、解散総選挙へ気迫のこもった交渉となりました。